

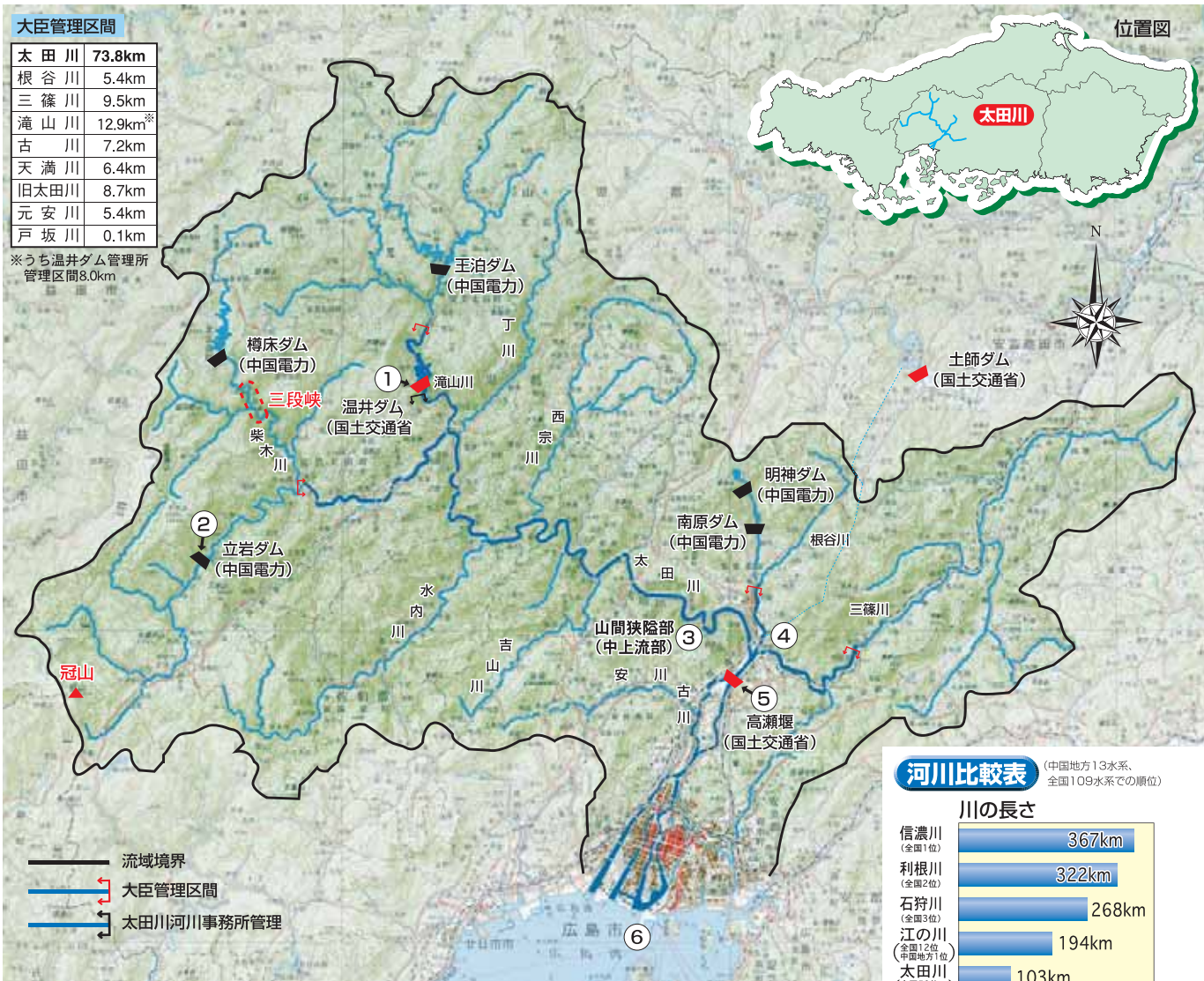
太田川の概要

太田川は、広島県西部の冠山（かんむりやま）に源を発し、幾つもの溪流を合わせながら東流し主要支川根谷川・三篠川と合流します。その後、流れを南向きに変え広島デルタの北端で太田川放水路と旧太田川に分派し、さらに天満川、元安川等に分かれ広島湾に注ぐ流域面積1,710km²、幹川流路延長約103kmの一級河川です。

太田川の上流部は、中国地方でも雨の多い地域で、国の特別名勝「三段峡」に代表されるように変化に富んだ景勝地が多く見られます。

下流部は、「全国名水100選」に選ばれるなど豊かで良好な水質を保ち、広島市、呉市、瀬戸内海島しょ部等への広域水道・工業用水として利用されています。

下流デルタ域に広がる広島市は、人口及び高度な都市機能が集積するとともに、市街地面積に占める水面の比率が全国屈指の高さであることから「水の都」とも呼ばれ、快適な都市の水辺空間の創出など魅力的な都市づくりが進められています。一方で、一度はん濫が生じた場合は甚大な被害となるため、更なる安全・安心な暮らしの確保が求められています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図、5万分の1地形図及び2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27中腹、第58号)

- 流域内人口：約101万人
- 想定はん濫区域内の人口：約55万人
- 想定はん濫区域内の面積：約90km² (平成17年 第9回 河川現況調査より)



①温井ダム(国土交通省)



②立岩ダム(中国電力(株))



③山間狭隘部(中上流部)



④三川合流点



⑤高瀬堰



⑥市内派川

